

閉会行事

あいさつ

柳沢 どうもありがとうございました。このシンポジウムの総代表であります、国立国語研究所所長の水谷からご挨拶申し上げます。

水谷 今日は長い時間にわたって本当に熱心にご討議され、ありがとうございました。途中からではありましたが、お話を伺っていてずいぶん勉強になりました。勉強になりましたという言葉は好きな言い方ではないのですが、後でこのことを自分なりに追求したいな、このことをもういっぺん考えてみたいな、ということがいっぱいありました。

国立国語研究所のシンポジウムは4年前から国際的な研究交流の場を用意するということで始めておりますし、それから創成的基礎研究・新プログラムというプロジェクトを3年前から始めていて、これは3年目の中間報告をする義務を課せられています。その二つを合わせて今回の国際シンポジウムの企画の基になっているわけです。そのために今日は分科会が3つありまして、この第3専門部会、講堂でやっている第1専門部会、それから国連大学でやっている第2専門部会とそれぞれ皆さん熱心にしていただきました。これは今も本当に感じたのですが、時間がやはり足りない。特に新プログラムでの研究のあり方というものは世界における日本語の現状把握、それから実践的・実験的な研究の展開、あるいは文化レベルでの研究というようなこともあるのですが、このチ - ムの所属している第4班が掲げている柱は、範囲がものすごく広い、解決しなければならないことがいっぱいある。そのために結論がなかなかうまく出てこないだろうということで、今の話し合いを伺っていても苦労していらっしゃるなと思います。ですからその結果について急ぎ過ぎないでじっくりと積み上げていってくだされば、しかもそれが量を一定量用意できたならば、社会に貢献できる立派な成果につながるのではないかというふうに考えながら伺っていました。

最後の司会者の上谷さんのまとめの中にもありましたけれど、こういう問題はすごく大切なことで、その実の場面の問題もやはり外せないところにある。こういう問題の解決のためには、もしかしたら教室内の問題だけでなく、社会全体のあり方の問題についても、もう少し提言をする必要があるのではないのでしょうか。

静岡県では4年前から「日本語教育」と言っていますけれども、話しことばの問題を中心にした活動を展開しています。非常に興味があるのは、教育委員会の義務教育課も生涯学習課も全部ことばの問題でチ - ムワ - クを組んで、展開してきていることです。どんな成果が出てくるかと楽しみにしているのですが、ある学校ではいじめが無くなったというようなことを、本当にそうかどうか分かりませんが、聞いております。先ほどのお話の助け合いの問題なども含めて、教室内の活動、これはやはり本拠地としてもものすごく大事だと思うのですが、と同時に社会全体の問題としてどのような音声言語の教育の振興を進めて行けるかというようなことについても、もっともっと皆さんからお話が伺えたらと思っています。

本当に長い時間にわたってお疲れかと思いますが、今日はありがとうございました。

閉会の弁

柳沢 本会が終わるに当たり、再度確認をさせていただきたいのですが、国語教育と日本語教育の各界の人が問題を認識し合うことは、第一段階と考えています。今日、他教科、教育、行政、研究、いろいろな方と話し合う意義を改めて強く感じました。次の段階として、本日の記録を中心にした報告書の作成があります。それではまた来年度ここで次の段階の話し合いをしたいと思いつつ、この第3専門部会を終わらせていただきたいと思います。

最後に本会の主催者である日本語教育センタ - 長甲斐からご挨拶を申し上げます。

甲斐ム 私も今日の会合を伺っておりまして、来年もこれは出来る、あるいはするべきだというように思いました。来年は8月の下旬に第5回国際シンポジウムを予定しているのですが、そのころにほぼ同じメンバーで、この会合を開催したいと思います。それまでにまた我々も一層調査・研究をし、話し合いの内容を発展させていければと思っております。今日は本当にいろいろとありがとうございました。